

地理学教室便り (2010, 2011 年度)

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。前号のこの欄でふれましたが、今号より隔年刊行となっており、教室便りは2年分をまとめて行います。「ジェンダーと地理学」を特集した前号は、50号という区切りの号であるだけでなく、日本の地理学界で一定の評価を得た号となりました。編集にたずさわったOGたちに感謝すると同時に、これまでこの雑誌に関わった多くの先輩諸氏にも、お礼申し上げます。

ところで、地理学教室のこの2年間で最も大きな出来事は、やはり昨年3月11日に発生した東日本大震災です。この日、すでに春休みに入っていたこともあり、キャンパス内には学生が少なかったものの、学生、教員、職員がグラウンドに避難し、集合した人たちの点呼を行った後、多くの人たちが帰宅困難者として微音堂で一晩を過ごしました。5年前に文教育学部1号館は耐震補強工事を終えていて、これが避難中にわずかの安心感につながりました。しかし、室内の備品の耐震固定作業を先延ばしにしていたため、7階の助手室、講義室、地図室、研究室、院生室などで棚の転倒、図書・書類・ガラスの散乱が起こり、2010年度卒業式、2011年度入学式を行えるように急いで教室を整理したものの、助手室、講義室が完全に復旧したのは9月でした。幸いにして、在学生、教職員にけが人は出ず、ほぼ例年の学年暦にしたがって授業が行われました。

大地震で混乱している最中の3月、栗原尚子教授が退官されました。栗原教授は、本学に着任してから29年間の長きにわたり、社会地理学、外国地誌などの教育に携わり、この分野の多くの学位取得者、大学研究者を育てる礎を築かれ、日本の地理学界に女性地理学者を多く輩出することに貢献されました。ここ数年は体調があまりすぐれ

ず、学生たちに威勢よく声をかける機会も減りましたが、定年まで勤められたことは何よりでした。2011年度に栗原先生は名誉教授になられました。また、前後して、水野は教授に昇任しました。2012年3月には、石塚道子教授が退官されることになっており、地理学に関わる教員がまた一人減ってしまうのは残念です。現在のコースメンバーは、学部地理学コースが水野、宮澤、長谷川の3名が、そしてグローバル文化学環に石塚、熊谷（平成23年度後期はサバティカル期間）の2名が、それぞれ在籍しています。大学院博士前期（修士）課程では、地理環境学コースに学部地理学コースの3名に熊谷が加わり、博士後期課程では、4名全員がジェンダー学際研究専攻のメンバーです。地理助手室のアカデミック・アシスタント（AA）を5年間勤めてくださった倉本美奈子さんと沼畑早苗さんは、2011年3月をもって退職し、代わりに古野一代さん、工藤絵里子さんが新たなAAとして勤務しています。お茶の水地理学会事務局の須野原さんは、今年度も総会・巡検・講演会・会誌・ニューズレター発送など、地理助手室を中心に在校生の相談役も兼ねながら、活発に動いています。さらに、2010年度から、東北大学大学院で社会地理学のテーマで学位を取った小田隆史さんが、日本学術振興会PD研究員として本学に在籍していましたが、2012年1月には、本学に新設されたシミュレーション科学教育研究センターの助教として採用となり、教育・研究を行っています。

この2年間も、多くの非常勤講師の先生方にお世話になりました。本学地理学コースのカリキュラムを支えてくださった先生方は、以下のとおりです。2010年度は、LA科目において、吉岡由希子、鈴木智恵子、片岡久美、山本健太、平野淳平

(以上、情報処理演習)、中川晋一(情報社会の安全保障)の各先生方、専門科目では、阿部隆(地図学)、谷川尚哉(日本地誌)、寄藤昂(地理情報学基礎演習)、齋藤元子(地理学英書講読)、矢部直人(地理情報システム演習Ⅱ)、西律子・佐々木リディア・関村オリエ(地理学フィールドワークB)、大学院では渡邊眞紀子(環境認識論)、藤掛洋子(社会環境学)の各先生方が担当しました。また、2011年度では、吉岡由希子、鈴木智恵子、片岡久美、大八木麻希(以上、情報処理演習)、中川晋一(情報社会の安全保障)の各先生方、専門科目では、阿部隆(地図学)、中臺由佳里(環境地理学基礎演習)、中山大地(測量学)、齋藤元子(地理学英書講読)、小田隆史(社会地理学)、目代邦康(地理学特殊講義)、関戸明子(文化地理学)、早川裕次(自然地理学)、西律子(社会地理学演習Ⅰ)、森島済(環境地理学演習)、西律子・佐々木リディア・目代邦康・山本理佳(地理学フィールドワークB)、大学院では池口明子(環境文化論)、谷謙二(社会コミュニケーション先端研究)の各先生方が担当しました。講師の先生方には、この場を借りてお礼申し上げます。

研究費助成では、学内経費に関しては、2010年度には実習設備経費「測量機器一式」を、2011年度に学長裁量経費「震災後の避難空間に関する地域性とマイノリティの予察的研究」、特別経費「地理的シミュレーション教材の防災への応用に関する基礎研究」を、それぞれ受けました。「測量機器一式」の経費では、これまで旧型の平板測量器具しかなかったところ、トータルステーション、GPSを購入し、測量学の実習が大いに近代化されました。また、東日本大震災後に学内に設けられた共同研究申請で、「避難空間」に関わる共同研究を開始し、東京海洋大と本学の合同シンポジウムでの報告、また学内での成果報告会で福島県いわき市などでの調査結果を報告しました。さらに、「地理的シミュレーション教材」の共同研究では、防災に役立つシミュレーション教材の探索、

改良を行いつつあります。なお、2011年度から開設された本学のシミュレーション科学教育研究センターには、水野、長谷川が兼任し、小田が助教として在籍し、2012年2月には、カリフォルニアで活躍中の日本人実業家、建築家をお呼びして、国際セミナーを開催し、大地震後の東日本の構想についてディスカッションします。なお宮澤と小田は、大震災直後から迅速に、津波遡上地域や原発被災地での人口地理学、社会地理学の調査・分析を進め、その成果は東北地理学会WEBページの震災関連ページへの投稿、全米地理学会、日中韓地理学会議などでの発表など、東北での生活経験に根ざした着実な学術成果を発信してきています。外部資金については、今年度も教員それぞれが科学研究費を代表・分担で獲得しており、その内容については、地理学コースWEBページから「研究者情報」のリンクでご覧ください。

学部教育では、教養教育として21世紀文理融合リベラルアーツが4年前から実施されているのに続いて、2011年度生から、専門教育として複数プログラム制が実施されることになりました。この新しい専門教育は、大学生の関心の多様化に伴い、研究者養成を目指した旧来の専門教育から、柔軟で横断的なカリキュラム編成を可能にする目的で作られています。地理学はもともと学際的、横断的な学問なので、この制度を利用して今までとは違うタイプの地理学者が育ってくることを期待しています。

学部地理学コースの最近の2年次進学生は、2011年度で15名、2012年度で7名となり、人数においてはアップ・ダウンが激しいですが、地理学を確実に学びたい学生が集まってきています。卒業生は、2010年度、2011年度ともに、公務員、教職、大学院進学の学生が多い年度となりました。まだ就職氷河期が続いていますが、地理学コースの卒業生は、民間企業への就職も決める人もいて、順調な進路状況と言えます。大学院博士前期課程では、平成2010年度に4名、2011年度に

4 名が入学し、博士後期課程ではそれぞれの年度で 1 名、2 名が入学しています。近年の大学院生の特徴として、社会人となって再度大学院で学びたいという学生が増えつつあることが挙げられます。留学生も着実に、大学院に受験、入学する人がいて、研究生も毎年数名います。大学院生の進路は、2010年度で 4 名すべてが公務員、教員、民間企業に就職し、2011年度では博士後期課程への進学などとなっています。なお博士前期課程 2 年に在籍する丸本美紀さんは、「古代奈良における気候災害復元と適応策としての溜池灌漑に関する自然地理学的研究」という課題で、日本科学協会「平成23年度笹川科学研究助成」を受けました。

2010、2011年度の巡検一覧は、末尾に示したとおりです。2010年度の夏の巡検では、宮澤の担当で仙台市で行われ、学部生 5 名が参加しました。巡検の概要については、WEB上に公開された巡検報告書をご覧ください。

<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/33469/bulletin/10083/50745>

また、2011年度は、長谷川、熊谷の担当で滋賀県朽木村で行われ、学部生11名、大学院生 4 名の計15名が参加した。その内容については、巡検報告書をご覧ください。

最後になりましたが、48号以来、研究職についている OG の編集委員によって本誌は編集されています。本務の仕事の傍ら、多くの時間を割いて、より充実した本誌を編集してくださり、感謝いたします。これまでのお茶の水地理に掲載された論文、記事はすべて本学の WEBレポジトリ TEA POTにて読むことができます。卒論要旨は、WEBで検索する全国の読者から、現物をぜひ読みたいという声が寄せられています。毎週、毎月の検索ランキングで、つねにお茶の水地理の論文、記事が入っていることは、本誌のバックナンバーの内容が現在でも古びていないものをもって示しています。TEA POTのアドレスは、次のとおりです。

<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/>

卒業生の皆様のさらなる活躍を期待し、本学地理学教室を魅力のある教育、研究の場となるように、教員一同これからも努力していく所存です。

(2012年 1 月記／地理学コース主任 水野 勲)

[2010年度巡検一覧]

- 4 月 神田川（水野）
- 5 月 吉祥寺（水野）
- 7 月 品川・汐留（非：西）
- 9 月12～16日 仙台（宮澤）
- 9 月 割り箸エコツアー（長谷川）
- 11月 等々力（非：佐々木）
- 11月 百年の森（長谷川）
- 12月 環境エコプロダクツ（長谷川）
- 12月 浅草（非：関村）
- 1 月 高尾（非：中臺）
- 1 月 高尾気象観測（長谷川）
- 2 月 多摩ニュータウン（宮澤）
- 3 月 琵琶湖（長谷川）
- 3 月 釜山*

（*水野が担当の予定であったが、大地震が直前に起こり、院生有志で実施した）

[2011年度巡検一覧]

- 4 月 お茶の水（水野）
- 5 月 吉祥寺（水野）
- 6 月 大久保・板橋（熊谷）
- 7 月 自然環境（非：目代・長谷川）
- 7 月18～22日 滋賀県朽木村（長谷川・熊谷）
- 7 月 成城・田園調布（宮澤）
- 10月 お茶大～椿山荘（長谷川）
- 10月 奥多摩（非：佐々木）
- 12月 環境エコプロダクツ（長谷川）
- 12月 海洋大・お茶大合同シンポジウム
- 1 月 結核・ハンセン病療養所（非：西）
- 2 月 多摩ニュータウン（宮澤）
- 3 月 丸の内～佃島（非：山本）